

継続的成長を支える KPIマネジメント

Performance Improvement Accounting
— 業績を変える管理会計 —

EYアドバイザリー・アンド・コンサルティング株式会社

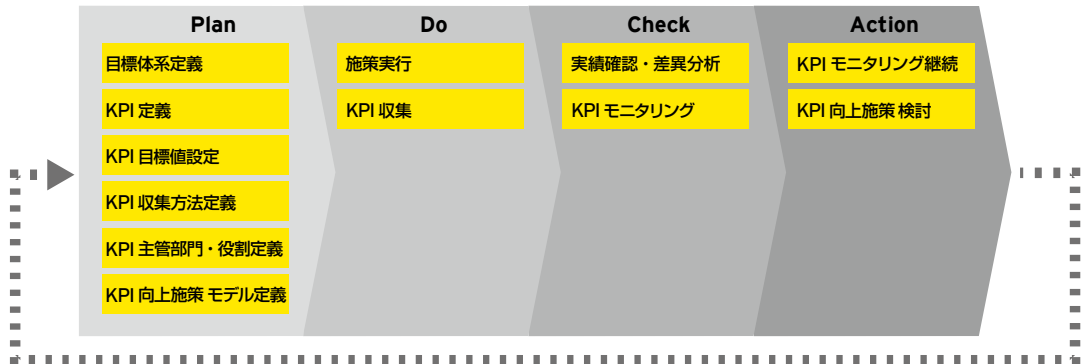
企業の中には様々な指標が眠っているが…

企業の中には、財務指標であれ、非財務指標であれ、様々な管理指標が存在しています。しかしながら、各指標を経営判断や現場マネジメントに上手く活用しているケースは少ないといえます。次のような事象に心当たりはありませんか？

- ▶ 見たい切り口で指標が設定されておらず、目標値と実績のギャップ(差異)を分析しても、会社の成長につながっているかどうか分からない
- ▶ 自部門ではコントロールできない指標が設定されているため、打ち手(アクション)に限界があり、責任だけ負わされている
- ▶ 指標が陳腐化していることに多くの人が気づいているが、見直しがされていない。また、そもそも見直し方法がわからない
- ▶ KPIマネジメントの目的が共有されていないため、実態は「管理のための管理」になっており、具体的な打ち手(アクション)に至っていない
- ▶ 経営情報分析システムを導入したが、指標数値の収集・加工・分析に時間がかかっており、当初の導入想定効果が表れていない

KPI マネジメントが継続的成長の鍵を握る

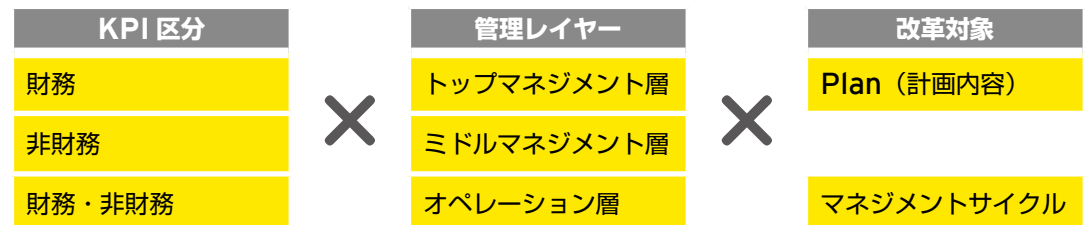
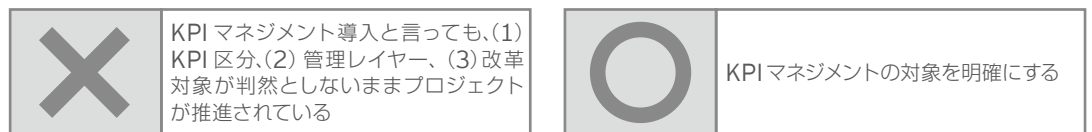
KPI マネジメントによる施策の実行と、KPI マネジメントの仕組みそのものたゆまぬ改善が継続的成長の鍵となります。地に足の着いた「PDCA サイクル」を構築するためにも、自社の目的に合致した導入計画を策定することが重要です。



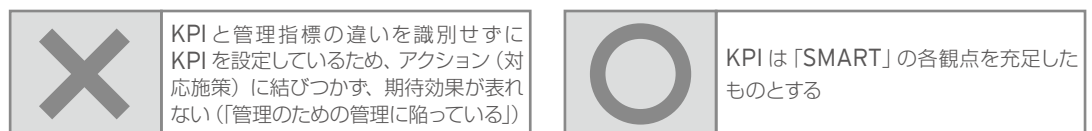
KPI マネジメントの重要成功要因 【KSF】 : Key Success Factor

KPI マネジメントは計画段階(Planning Phase)の良し悪しが成否を決めるといっても過言ではありません。EY アドバイザリー・アンド・コンサルティングは豊富なプロジェクト実績に裏打ちされた独自のノウハウ・メソドロジーをフル活用し、「KPI」というキーワードに関連するサービスを提供いたします。※以下は一例になります。

▶ KSF ① : KPI マネジメントの対象を明確化する



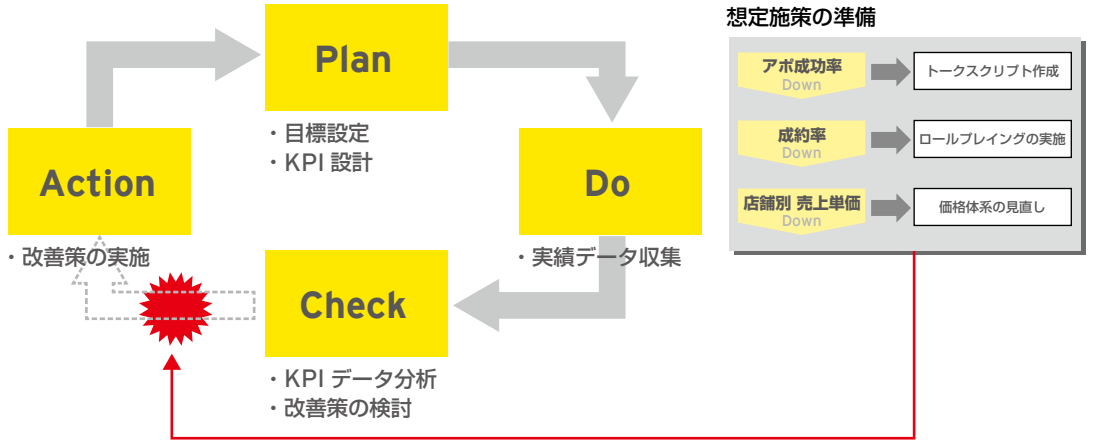
▶ KSF ② : KPI は「SMART」に設定する



S	Specific	具体的なものであること	抽象的、曖昧な目標は評価できない
M	Measurable	計測可能であること	定性的な目標では評価が困難となる
A	Achievable	達成可能であること	現実性ととともに、アクション (対応施策) への結びつきを考慮する (Action-oriented/Active)
R	Relevant	価値観が一致していること	戦略や最終目標への関連性を維持する
T	Time-bound	期限が明確であること	期限が明確であるとともに、適切であることも重要となる (Timely)

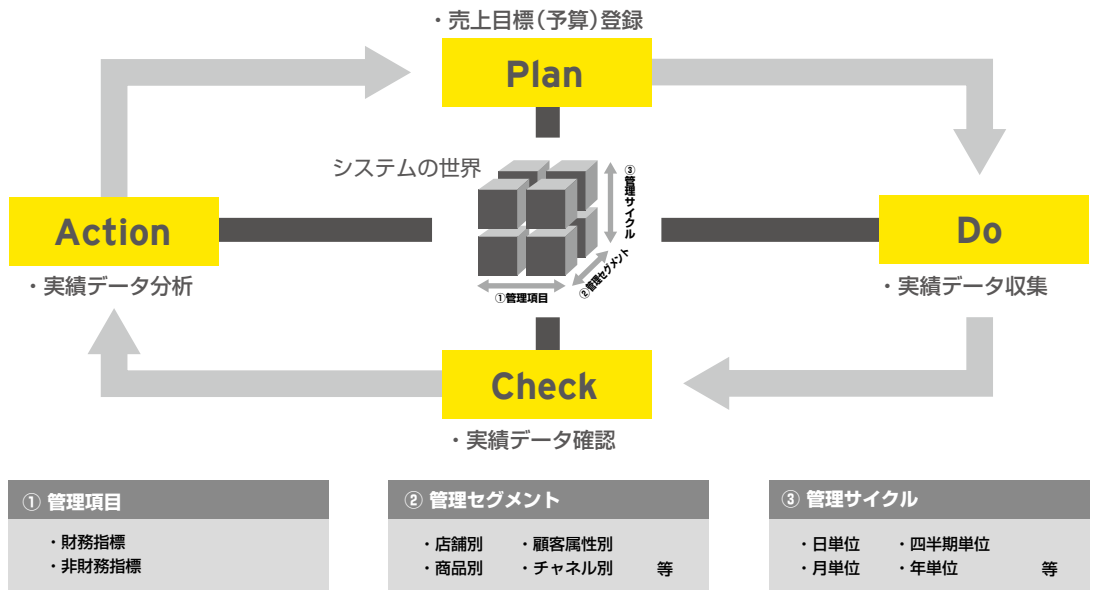
▶ **KSF ③ : 想定施策は事前に準備する**

×	KPI の目標値を下回った際、建設的な議論ができず、結果、過去の KKD (「勘・経験・度胸」) に頼ることが多い(「PDCA サイクル」という言葉が上滑りしている)	○	計画段階で事前に各 KPI に対する想定施策を準備する
----------	---	----------	-----------------------------



▶ **KSF ④ : IT 導入は業務要件確定後にする**

×	経営情報分析システムが出力するレポートの「見た目」にばかり注意が行き、導入目的や実運用を考慮せずに IT 導入を進めてしまっている	○	業務設計とシステム企画の同期化を図る (業務が回らないとシステムは使いこなせない)
----------	---	----------	---



KPI マネジメント導入アプローチ例

貴社に最適なアプローチをご提案いたします。



EYについて

EYは、アシュアランス、税務、トランザクションおよびアドバイザリーなどの分野における世界的なリーダーです。私たちの深い洞察と高品質なサービスは、世界中の資本市場や経済活動に信頼をもたらします。私たちはさまざまなステークホルダーの期待に応えるチームを率いるリーダーを生み出していきます。そうすることで、構成員、クライアント、そして地域社会のために、より良い社会の構築に貢献します。

EYとは、アーンスト・アンド・ヤング・グローバル・リミテッドのグローバル・ネットワークであり、単体、もしくは複数のメンバーファームを指し、各メンバーファームは法的に独立した組織です。アーンスト・アンド・ヤング・グローバル・リミテッドは、英国の保証有限責任会社であり、顧客サービスは提供していません。詳しくは、ey.com をご覧ください。

EY Japanについて

EY Japanは、EYの日本におけるメンバーファームの総称です。新日本有限責任監査法人、EY 税理士法人、EY トランザクション・アドバイザリー・サービス株式会社、EY アドバイザリー・アンド・コンサルティング株式会社などから構成されており、各メンバーファームは法的に独立した法人です。詳しくは www.ejapan.jp をご覧ください。

EY アドバイザリー・アンド・コンサルティング株式会社について

EY アドバイザリー・アンド・コンサルティング株式会社はEYの日本におけるメンバーファームです。さまざまな分野の専門性を有するプロフェッショナルがグローバルに連携し、企業が抱える経営課題に対し、最先端かつグローバルな視点と実行力で最適なアドバイザリーサービスを総合的に提供いたします。詳しくは www.ejapan.jp/advisory をご覧ください。

© 2017 EY Advisory & Consulting Co., Ltd. All Rights Reserved.

ED None

本書は一般的な参考情報の提供のみを目的に作成されており、会計、税務およびその他の専門的なアドバイスを行うものではありません。EY アドバイザリー・アンド・コンサルティング株式会社および他の EY メンバーファームは、皆様が本書を利用したことにより被ったいかなる損害についても、一切の責任を負いません。具体的なアドバイスが必要な場合は、個別に専門家にご相談ください。

サービスに関するお問い合わせ

EY アドバイザリー・アンド・コンサルティング株式会社

お問い合わせフォームへ
(ここをクリックしてください)